Research Papers 研究論文

COVID-19 初期まん延期における心理師の現状と災害心理援助に関するオンライン研修の有効性について

The Studies of Difficulties of Psychologists in the Early Phase of Coronavirus and the Effectiveness of Online Training on Disaster Psychological Assistance

赤田　太郎
四條畷学園短期大学　アジア災害トラウマ学会事務局長
Taro Akada
Shijonawate-gakuen Junior College
Secretary General, Asian Society for Disaster Trauma Studies

SUMMARY

The purpose of this study was to examine the current status of psychologists in the early stages of the COVID-19 epidemic and the effectiveness of online training on disaster psychological assistance, based on a questionnaire survey on online training.

The results revealed that the difficulties and challenges in their work during the initial COVID-19 outbreak included difficulties in face-to-face workplace counseling, the need for online counseling activities, infection anxiety associated with hospital-based interviews, and concerns about stress care for staff. The largest number of respondents indicated that their workload remained the same, followed by those who decreased their workload by 50%. Participants' perceptions that changed during the training were that they were able to share information and understand the situation in each area, that they learned correct information about the new coronavirus, and that they realized the importance of imagining the child's mind. The level of satisfaction and usefulness of the training increased as the training progressed. When the need for future training was compared among the three trainings, the number of requests decreased with each training.

These results suggest that the four trainings conducted at the Asian Society for Disaster Trauma Studies were highly effective in meeting the needs of the initial corona response. It is important that the training content to be provided in disaster psychological support be (1) recognition and sharing of the current situation in each area, (2) confirmation of the basic attitude of care, (3) the need to take care of oneself

連絡先：ta.ro.0328@gmail.com

(self-care), (4) knowledge of the cause of the disaster, the new coronavirus, and (5) a positive and hopeful attitude regarding support.

Keywords: Disaster psychological assistance, COVID-19, Psychological training, Psychology profession, Current status of duties

本研究の目的は、COVID-19 まん延初期の心理師の現状と災害心理援助に関するオンライン研修の有効性について、オンライン研修に関するアンケート調査から検討した。

その結果、初期 COVID-19 まん延期における業務の中での困難や課題は、対面での職場でのカウンセリングに困難が伴う事、相談活動にオンラインが求められること、病院で行う面接に伴う感染不安、職員のストレスケアについて悩んでいることなどが明らかとなった。また、業務量の増減は変わらなかった人が最も多く、次いで 50%減少した人が多かった。研修において変化した参加者の認識は、各領域での情報共有や状況理解ができたこと、新型コロナウイルスの正しい情報を知れたこと、子どもの心を想像する重要性に気づいたというものだった。また、研修の満足度・役立ち度は、研修が進むにつれて高くなった。今後の研修の必要性を 3 研修で比較したところ、研修を実施するごとに要望が少なくなっていた。

これらの結果から、アジア災害トラウマ学会で行った 4 回の研修は、初期コロナ対応のニーズを満たす有効性の高い研修だったと考えられる。また、災害心理援助で行う研修内容は、①それぞれの領域における現状の認識と共有、②ケアの基本姿勢の確認、③自分自身を大切（セルフケア）にしなければならない、④災害の原因である新型コロナウイルスを知ること、⑤支援については前向きで希望を感じるもの、となるようにすることが重要である。

キーワード：災害心理援助　新型コロナウイルス（COVID-19）　心理研修　心理専門職　職務の現状

Ⅰ　問題と目的

１．本研究の問題

新型コロナウイルス（COVID-19）によって、日本においては新型コロナウイルス対策の特別措置法が 2020 年 3 月 13 日に成立し、全国的かつ急速なまん延により、国民生活や経済に甚大な影響を及ぼすおそれがある場合などに、総理大臣が宣言を行い、緊急的な措置を取る期間や区域を指定されることになった。安倍総理大臣は 2020 年 4 月 7 日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の 7 都府県に緊急事態宣言を行い、4 月 16 日に対象を全国に拡大した。このうち当初から宣言の対象とした 7 都府県に、北海道、茨

城、石川、岐阜、愛知、京都の 6 道府県を加えた 13 の都道府県を、特に重点的に感染拡大防止の取り組みを進めていく必要があるとして、「特定警戒都道府県」と位置づけた。そして、5 月 14 日に北海道・東京・埼玉・千葉・神奈川・大阪・京都・兵庫の 8 つの都道府県を除く、39 県で緊急事態宣言を解除することを決定した。また、5 月 21 日には、大阪・京都・兵庫の 3 府県について、緊急事態宣言を解除することを決定したが、緊急事態宣言は、東京・神奈川・埼玉・千葉・北海道の 5 都道県で継続。5 月 25 日には首都圏 1 都 3 県と北海道の緊急事態宣言を解除。およそ 1 か月半ぶりに全国で解除されることになった。

この間に、厚生労働省は新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言（5 月 4 日）を踏まえ、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を具体的にイメージできるように今後、日常生活の中で取り入れていただきたい実践例が示された（厚生労働省,2020）。

この流れを受けて、アジア災害トラウマ学会では、COVID-19 を自然災害に位置付けた。世界規模の感染症の蔓延という事態は、近年にこれまで人類が経験しなかったため、心理師のあるべき支援の方法を先行事例から収集することとした。そして、その先行事例に基づいて、精査しながら適切な情報提供を行うことを目的とした研修を実施することとした。

一般社団法人日本公認心理師協会（2021）による公認心理師への調査では、新型コロナウイルス感染症の影響で、各種遠隔相談ツールを導入したと回答した人が約 34%である一方、支援内容の縮小・休止が約 66%、勤務形態の変更が約 41%、減収が約 16%と、支援内容や勤務形態等に影響を及ぼしていた。特に、非常勤勤務での影響が常勤勤務と比較して多かったという。この状況の中で研修を実施する取り組みを通して、この時期に抱えていた心理師等の困難な状況と、本研修についての有効性や果たす役割について検討することは、今後の危機対応のあり方を示す上で重要である。

本研究においては、2020 年の間に合計 4 回の研修を実施した。この研修会を通して、参加された心理師等がこのコロナ禍での取り組みとその悩みや考えなどについてのアンケートを収集した。そのアンケートに基づいて、心理師のおかれている現状と研修の有効性を明らかにする。

２．本研究の目的

本研究の目的は、COVID-19 まん延初期の心理師の現状と災害心理援助に関するオンライン研修の有効性について、オンライン研修に関するアンケート調査から検討する。

そこで、本研究の目的は 2 つ設定した。第 1 の目的は、初期 COVID-19 まん延期における心理師の現状について明らかにするために、（1）業務の中で抱えている困りごとや課題について、（2）初期のコロナ禍において業務量の増減について、（3）コロナウイルスの情報に対して心理師がどう認識したかの 3 つを分析対象として設定した。第 2 の目的で

ある研修の有効性については、（4）それぞれの研修の満足度・役立ち度についてと、（5）今後の研修への希望の変化について検討することによって明らかにする。

Ⅱ　方　法

1．対象者

アンケート対象者は、これらの研修の参加者でアンケートに協力した人数は、第 2 回 272 名、第 3 回 220 名、第 4 回 157 名の合計 649 名である。なお、調査データは同一人物が複数回にわたり研修に参加している。

各研修の実施日および申込数、参加者数、アンケート提出数については以下の表に示す（table1）。

Table 1: Dates and number of applications, participants, and questionnaires submitted for each training course

表 1　各研修の実施日および申込数、参加者数、アンケート提出数について

Training Title 研修名	Date 実施日	Applicant 申込者数	Participant 参加者数	Proposer 提出者数	submission rate提出率%
1st TR:Covid19　こころのサポート研修　情報交換会	7-Mar	100	97	-	-
2nd TR:【第二弾】COVID-19　心のサポートWEB研修・情報交換会	26-Apr	517	438	272	62.1
3rd TR:【第三弾】COVID-19　心のサポートWEB研修・情報交換会	31-May	520	336	220	65.5
4th TR:【第四弾】COVID-19　心のサポートWEB研修・情報交換会 「新しい生活様式への懸念とこれからのメンタルヘルスについて」	6-Sep	365	320	157	49.1
合計		1502	1191	649	54.5

参加者の職域は以下のとおりである（table2）。これらの選択においては、複数選択可となっている。表中の「—」については選択項目が設定されていないことを意味する。

Table 2: Job areas for each training program (multiple choice)

表 2　各研修の職域について（複数選択可）

	2nd TR	3rd TR	4th TR
Education 教育	176	157	78
Medical Care 医療	109	81	62
Welfare 福祉	42	36	29
Industry 産業	35	21	17
Judiciary 司法	8	4	1
Public Administration行政	–	8	8
Private Practice 開業	–	8	–
Research Institutions 研究機関	–	–	33
Unemployed 無職	–	1	2
Total 合計	370	316	230

参加者の資格及び職種についての属性について、第 2 回、第 3 回については table3 に示す。参加者の資格及び職種に関する組み合わせについては、第 4 回に調査を行い、その結果については、table4 に示した。

Table 3: Qualifications and job titles of participants in the 2nd and 3rd training sessions

表 3　第 2 回、第 3 回研修参加者の資格および職種について

抽出語	第 2 回	抽出語	第 3 回
臨床心理士	245	臨床心理士	198
公認心理師	231	公認心理師	179
		認定心理士	1
教師	17	教師	14
		養護教諭	3
		特別支援教育士	2
		特別教育支援士	1
		幼稚園教諭	1
		人権教育講師	1
看護師	8	看護師	5
他医療従事者	4	作業療法士	1
		助産師	1
医師	1	医師	1
その他	17	精神保健福祉士	6
		社会福祉士	5
		保育士	4
		キャリアコンサルタント	2
		シニア産業カウンセラー	1
		管理栄養士	1
		臨床心理士資格試験受験予定	1
合計			428

Table 4: Qualifications and job combinations of the 4th training participants

表 4　第 4 回研修参加者の資格および職種の組み合わせについて

抽出語	第 4 回
臨床心理士, 公認心理師	102
臨床心理士	18
臨床心理士, 公認心理師, 教員・保育士	10
公認心理師	5
スクールカウンセラー	2
学生	2
教員・保育士	2
臨床心理士, 教員・保育士	2
臨床心理士, 公認心理師, 保健師・看護師・PT・OT・臨床検査技師	2
公認心理師, 医師	1
公認心理師, 教員・保育士	1
公認心理師, 精神保健福祉士	1
公認心理師, 保健師・看護師・PT・OT・臨床検査技師	1
公認心理師, 保健師・看護師・PT・OT・臨床検査技師, ケアマネジャー	1
社会福祉士・介護福祉士, 教員・保育士	1
精神保健福祉士	1
保健師・看護師・PT・OT・臨床検査技師, 教員・保育士	1
臨床心理士, 公認心理師, シニア産業カウンセラー	1
臨床心理士, 公認心理師, 社会福祉士・介護福祉士	1
臨床心理士, 公認心理師, 精神保健福祉士	1
臨床心理士, 公認心理師, 大学非常勤講師	1
合計	157

２．調査方法と分析方法

本研究では、Google foam による質問紙法での選択肢および自由記述によりデータの収集を行った。アンケートの回収期間は、それぞれ研修実施後１週間とした。また重複投稿について判定されるものは削除した。

量的分析については IBM SPSS23、質的分析については、KH Coder 3（樋口,2022）を用いた。なお、考察において自由記述からの引用については「」を用いる。

３．研修の概要について

（1）第１回研修

テーマ：「Covid-19　こころのサポート研修　情報交換会」
日時：2020 年 3 月 7 日(土) 14：00～17：00　ZOOM による会議
参加者：97 名　アンケート：未実施
①中国から学ぶ―この難しい事態に対するこころのサポートの先行経験を豊富に持つ中国の一般・子ども向けハンドブックの紹介、活動の成果の紹介など。
発表者：伍芳辉（北京教育学院副教授）吉沅洪（立命館大学）黄正国（広島大学）
②日本各地の現状の報告と情報の共有
発表者：北海道臨床心理士会・兵庫県臨床心理士会

（2）第２回研修

テーマ：【第二弾】COVID-19　心のサポート WEB 研修・情報交換会
日時：2020 年 4 月 26 日（日）14：00～16：00　ZOOM による会議
申込者：517 名　参加者：438 名　アンケート：272 名
参加資格：新型コロナウイルスに関連したこころのケアに興味のある方
参加費：無料
①医療分野　発表者：溝口由里子（ベルランド総合病院）
②教育分野　発表者：春原千夏（兵庫県スクールカウンセラー）

（3）第３回研修

テーマ：【第三弾】COVID-19　心のサポート WEB 研修・情報交換会
日時：2020 年 5 月 31 日（日）14：00～16：30　Zoom による会議
申込者：520 名　参加者：336 名　アンケート：220 名
①話題提供１　医療分野から
発表者：中間裕美子（東北医科薬科大学病院）
②話題提供２　教育分野から
発表者：礒谷由希（熊本県益城町・小学校教諭）大塚芳生（熊本大学教授）
③話題提供３　福祉分野から

発表者：樋口純一郎（神戸市こども家庭局心理判定員）
④全体ディスカッション　総合司会：黄正国（広島大学）

（4）第 4 回研修

【第四弾】COVID-19 心のサポート WEB 研修・情報交換会「新しい生活様式への懸念とこれからのメンタルヘルスについて」《公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会助成事業》
日時：9 月 6 日 14:00 - 16:40　ZOOM を使った Web 研修会　申込者：365 名　参加者：320 名　アンケート 157 名
①第一部　秋冨慎司（医凰会医療危機管理部部長・環境適応医学研究所所長・前防衛医科大学准教授）　冨永良喜（兵庫県立大学教授）
②第二部　菊地祐子（東京都立小児総合医療センター児童精神科医）、高橋哲（芦屋生活心理学研究所所長）

４．調査アンケートの設定

本研究では、第 1 回研修を除いた第 2～4 回の研修後に調査のためのアンケート（table5~7）をそれぞれ以下の通り実施した。
（1）業務の中で抱えている困りごとや課題については、第 2 回、第 3 回研修後のアンケートにおいて実施した。（2）初期のコロナ禍において業務量の増減については、第 3 回研修後のアンケートにおいて実施した。（3）コロナウイルスの情報に対して心理師がどう認識したかについては、第 3 回および第 4 回研修後のアンケートにおいて実施した。
（4）それぞれの研修の満足度と（5）今後の研修の必要性については、第 2 回、第 3 回、第 4 回研修後のアンケートにおいて実施した。本研究では、前述の通りにアンケートを設定した。設定した内容を以下に示す。

Table 5: Second Training Questionnaire
表 5　第 2 回研修アンケート

1．お仕事の領域を教えてください（複数回答可）［領域は？］
2．資格か職種を教えてください（複数回答可）［資格か職種は？］
3．お住まいの郵便番号(最初の 3 桁のみ）をお書きください。
4．この研修会の感想や新型コロナウイルス対応での実践やお困りのことなどをお書きください
5．今後の研修会企画の要望があればお書きください。

Table 6: Third Training Questionnaire

表 6　第 3 回研修アンケート

1．御仕事の領域は？
2．資格か職種があれば、教えてください
3．新型コロナウイルス関連の対応で、今までの業務量に増減はありましたか？数値でお答えください。
4．お住いの郵便番号（最初の 3 桁のみ）をお書きください
5．今回の研修について、満足度はいかがですか？
6．今回の研修会について、感想を自由にお書きください。
7．新型コロナウイルス対応の実践について、お考えやお困りのことなど、お書きください。
8．今後の研修でのご希望、本学会に期待することなどございましたら、自由にお書きください。

Table 7: Fourth Training Questionnaire

表 7　第 4 回研修アンケート

1．あなたの年齢は？
2．性別は？
3．職種は？（複数回答可）
4．勤務場所は？（複数回答可）
5．第 1 部の対談の役立ち度は？
6．第 1 部の対談の満足度は？
7．第 1 部の感想をどうぞ！
8．第 2 部の対談の役立ち度は？
9．第 2 部の対談の満足度は？
10．第 2 部の感想をどうぞ！
11．本学会の今後の企画や要望や思いなどありましたらお書きください。

Ⅲ　結　果

１．コロナ禍初期の業務で抱えている困りごとや課題について

業務の中で抱えている困りごとや課題について明らかにするために、第 2 回研修の「4．この研修会の感想や新型コロナウイルス対応での実践やお困りのことなどをお書きください」と、第 3 回研修の「7．新型コロナウイルス対応の実践について、お考えやお困りのことなど、お書きください。」の 2 項目を対象とした。第 2 回研修については Jaccard 法による多次元尺度構成法で分析した結果を以下の figure1 で示す。また、第 3 回研修については、Cosine 法による多次元尺度構成法で分析した結果を figure2 で示す。

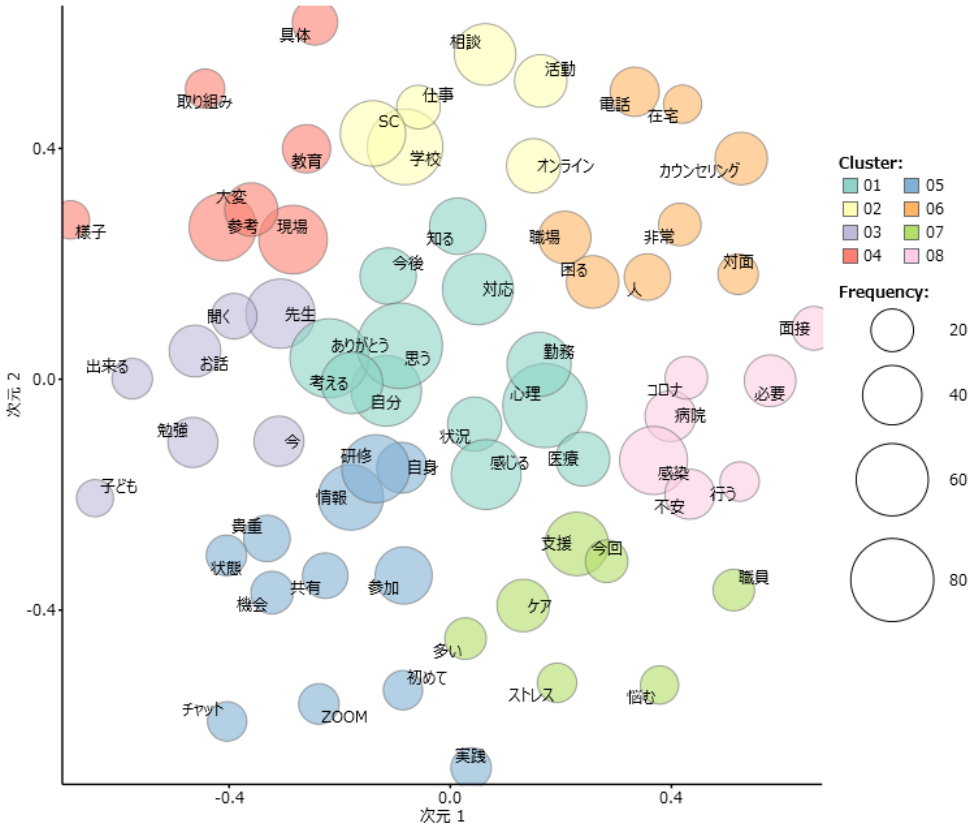

Figure 1: Results of Multidimensional Scaling Construct Method for Question 4 of the Second Training

図 1　第 2 回研修の設問 4 の多次元尺度構成法による結果

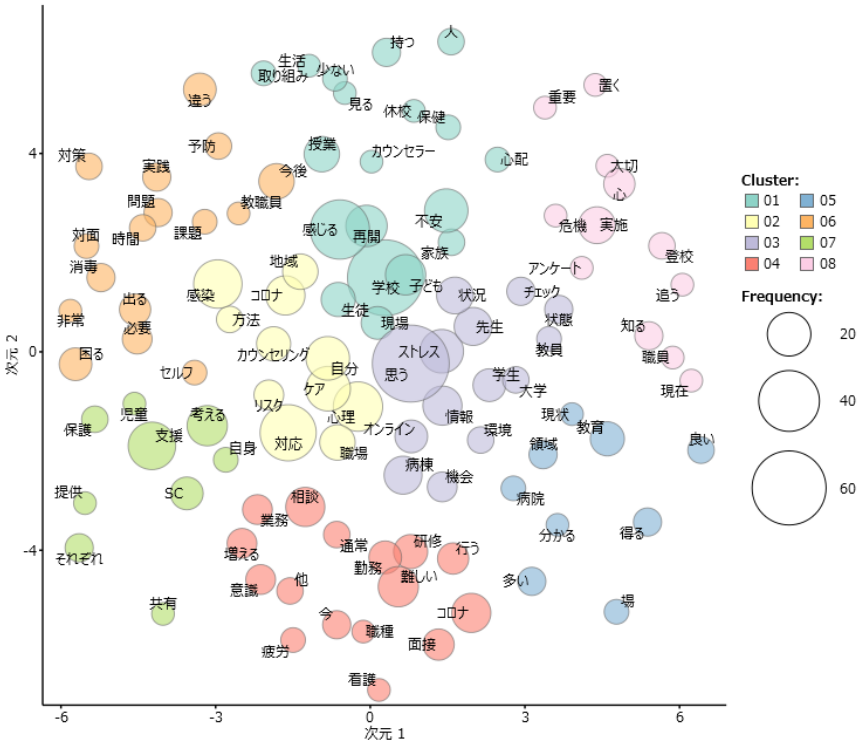

Figure 2: Multidimensional scaling results for question 7 of the third training session.

図 2　第 3 回研修の設問 7 の多次元尺度法による結果

２．初期のコロナ禍における業務量の増減について

初期における業務量の増減について明らかにするために、第 3 回研修の「3. 新型コロナウイルス関連の対応で、今までの業務量に増減はありましたか？数値でお答えください。」を対象とした。0%は変化が無しで 100 で 2 倍、-100%で仕事が無くなったことを意味している。回答者は 198 名である。（figure3）。

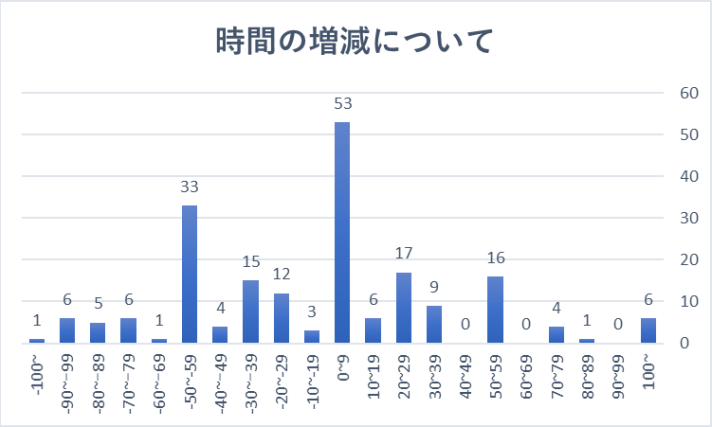

Figure 3: Increase or decrease in workload to date in the third training (%)

図 3　第 3 回研修における今までの業務量の増減について（%）

３．コロナウイルスの情報に対して参加者がどう認識したか

コロナウイルスの情報に対して心理師がどう認識したかについては、第３回研修、第４回研修１（前半）、第４回研修２（後半）の各研修会の感想を対象として分析した。

（１）第３回研修の内容（医療、教育、福祉の現場からの報告）について

３つの職域の「現場からの報告」に対して、心理師がどのような感想を持ったかについて調査するために、第３回研修後のアンケートの項目「6．今回の研修会について、感想を自由にお書きください。」の自由記述を Jaccard 法による共起ネットワーク法によって分析した。その分析結果を図４に示す。

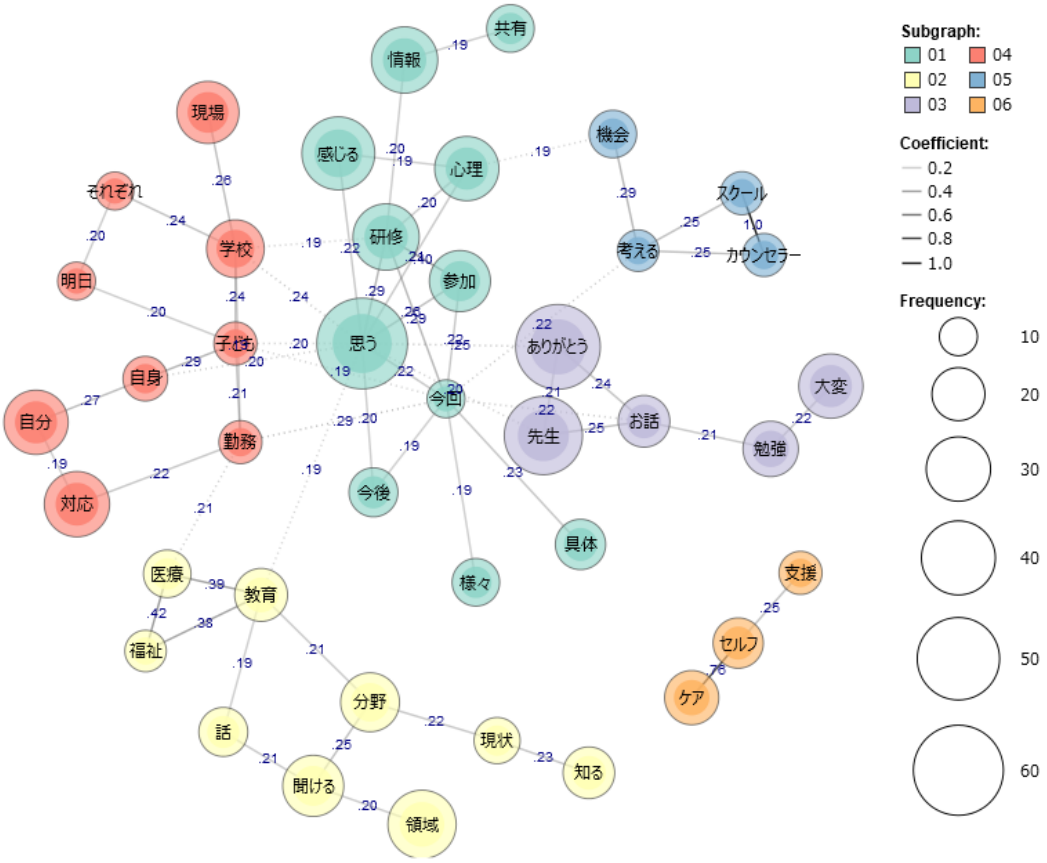

Figure 4: Co-occurrence network method results for question 6 of the third training session.

図４　第３回研修の設問６の共起ネットワーク法による結果

（2）第 4 回研修 1「新型コロナウイルスの特徴について」

秋冨慎司氏、冨永良喜氏による新型コロナウイルスの特徴の講演に対して、心理師がどのような感想を持ったかについて調査するために、第 4 回研修後のアンケートの項目「7. 第 1 部の感想をどうぞ！」の自由記述を Euclid 法による共起ネットワーク法によって分析した。その分析結果を figure5 に示す。

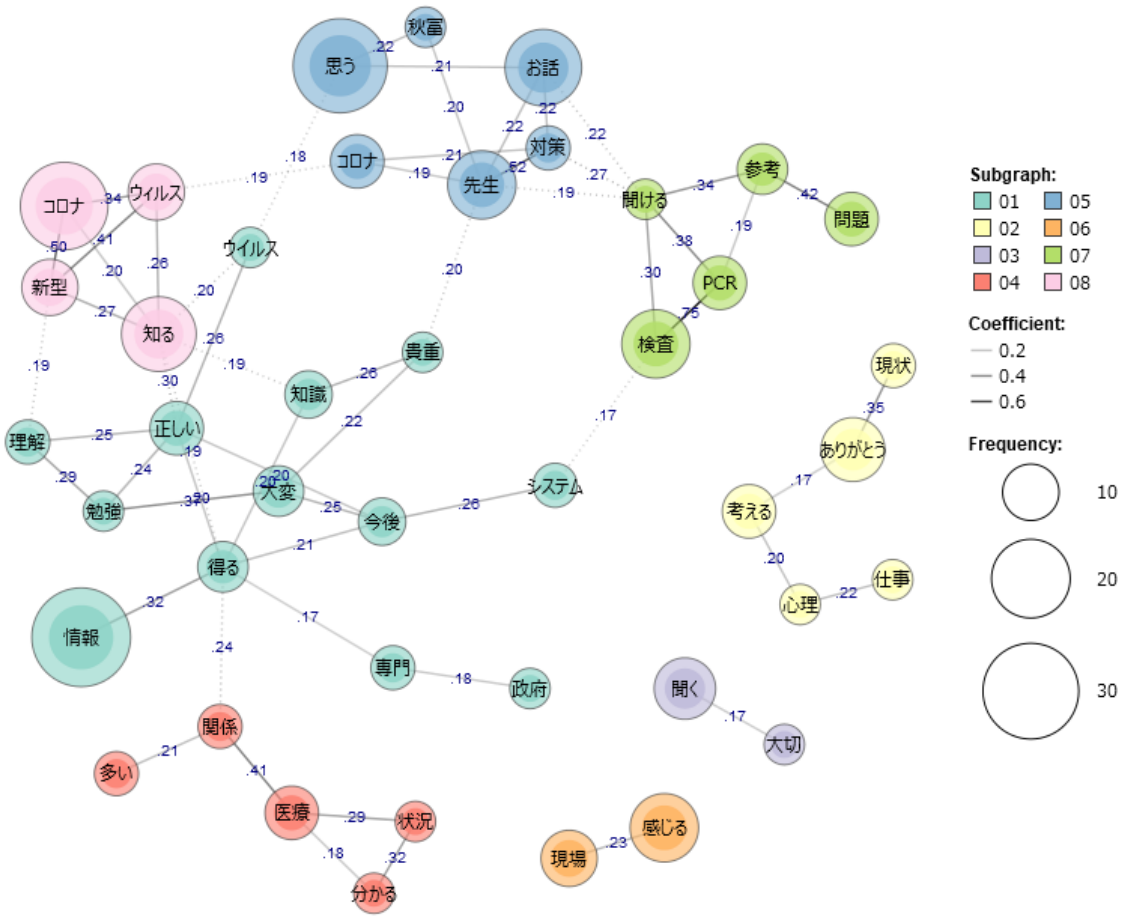

Figure 5: Co-occurrence network method results for question 7 of the fourth training (first half)

図 5　第 4 回研修（前半）の設問 7 の共起ネットワーク法による結果

（3）第 4 回研修 2「新型コロナウイルスへの精神的対応について」

菊地祐子氏、高橋哲氏によるによる新型コロナウイルスへの精神的対応についての講演に対して、心理師がどのような感想を持ったかについて調査するために、第 4 回研修後のアンケートの項目「10. 第 2 部の感想をどうぞ！」の自由記述を Cosign 法による共起ネットワークによって分析した。その分析結果を figure6 に示す。

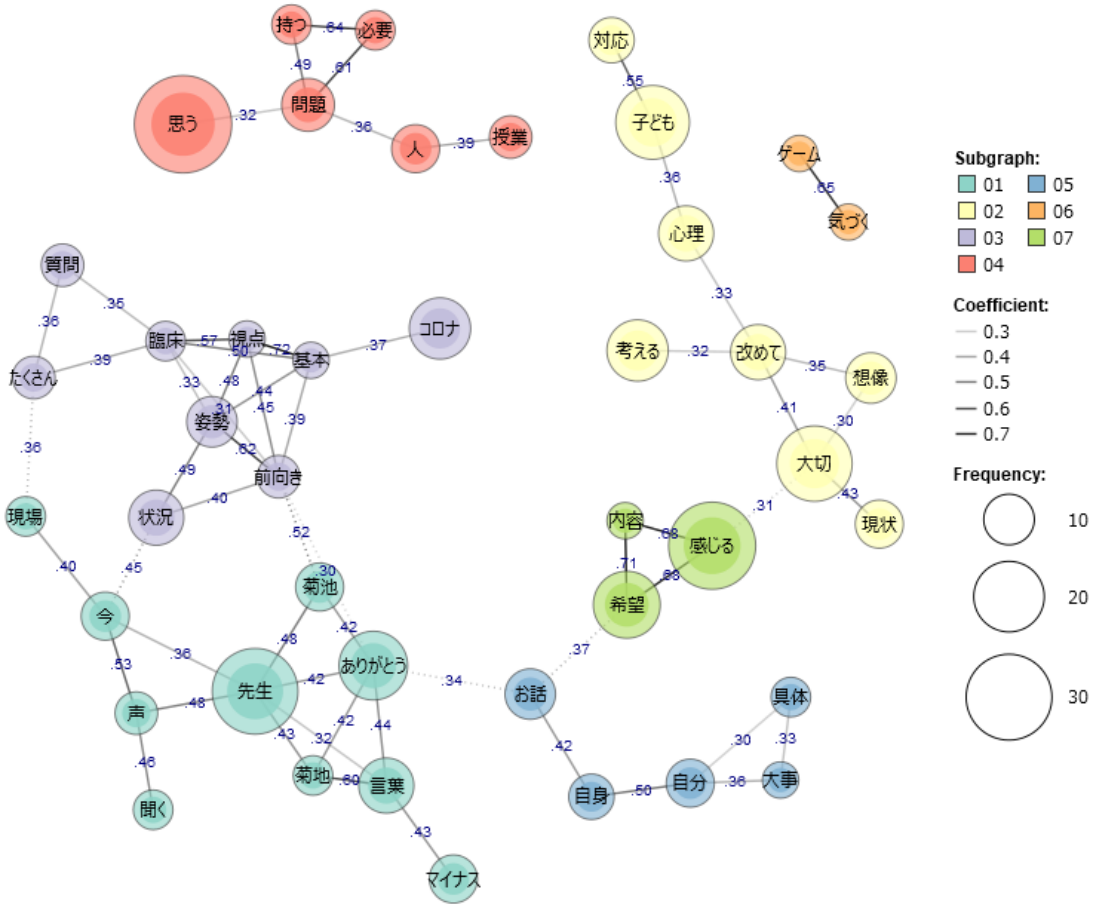

Figure 6: Co-occurrence network method results for question 10 in the fourth training (second half)

図 6　第 4 回研修（後半）の設問 10 の共起ネットワーク法による結果

４．それぞれの研修の満足度・役立ち度について

それぞれの研修に対する満足度や役立ち度については、第 3 回研修、第 4 回研修 1、第 4 回研修 2 の各研修会を対象として対応分析を行った。

①第 3 回研修での 3 つの職域の「現場からの報告」に対する満足感について調査するために、第 3 回研修後のアンケートの項目「5. 今回の研修について、満足度はいかがですか？」の 5 件法についての結果、②第 4 回研修 1「新型コロナウイルスの特徴について」秋冨慎司氏、冨永良喜氏による新型コロナウイルスの特徴の講演に対する満足度と役立ち度については、第 4 回研修後のアンケートの項目「5. 第 1 部の対談の役立ち度は？」「6. 第 1 部の対談の満足度は？」の 2 項目について、③第 4 回研修 2「新型コロナウイルスへの精神的対応について」菊地祐子氏、高橋哲氏によるによる新型コロナウイルスへの精神的対応についての講演に対する満足度と役立ち度について明らかにするために、第 4 回研修後のアンケートの項目「8. 第 2 部の対談の役立ち度は？」「9. 第 2 部の対談の満足度は？」の結果について、それぞれ table8 に示す。

Table 8: Satisfaction and usefulness of the 3rd and 4th training sessions

表 8　第 3 回、第 4 回研修の満足度および役立ち度

	3rd Training Satisfaction	4th Part 1 Training Usefulness	4th Part 1 Training Satisfaction	4th Part 2 Training Usefulness	4th Part 2 Training Satisfaction
5Hi	63	70	67	84	85
4	120	64	64	58	53
3Mid	31	17	21	12	17
2	3	5	3	2	1
1Lo	3	1	2	1	1
total	220	157	157	157	157

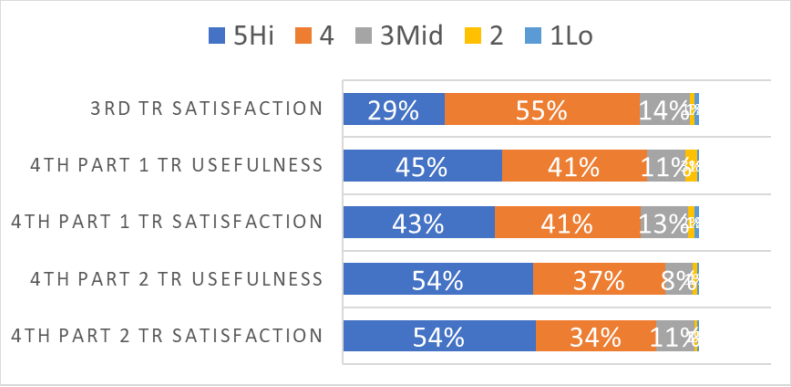

Figure 7: Percentage of satisfaction and usefulness of the 3rd and 4th training sessions

図 7　第 3 回、第 4 回研修の満足度および役立ち度の割合

５．今後の研修の必要性について

今後の研究の必要性がどのように変化していったかについて分析するために、第 2 回研修「5. 今後の研修会企画の要望があればお書きください。」、第 3 回研修「8. 今後の研修でのご希望、本学会に期待することなどございましたら、自由にお書きください。」、第 4 回研修「11. 本学会の今後の企画や要望や思いなどありましたらお書きください。」のそれぞれの今後の研修に対する要望について尋ねた項目を分析対象とした。分析対象を自由記述とし、分類変数を第 2 回研修が 2、第 3 回研修が 3、第 4 回研修が 4 として対応分析した。その結果を以下の figure8 に示す。

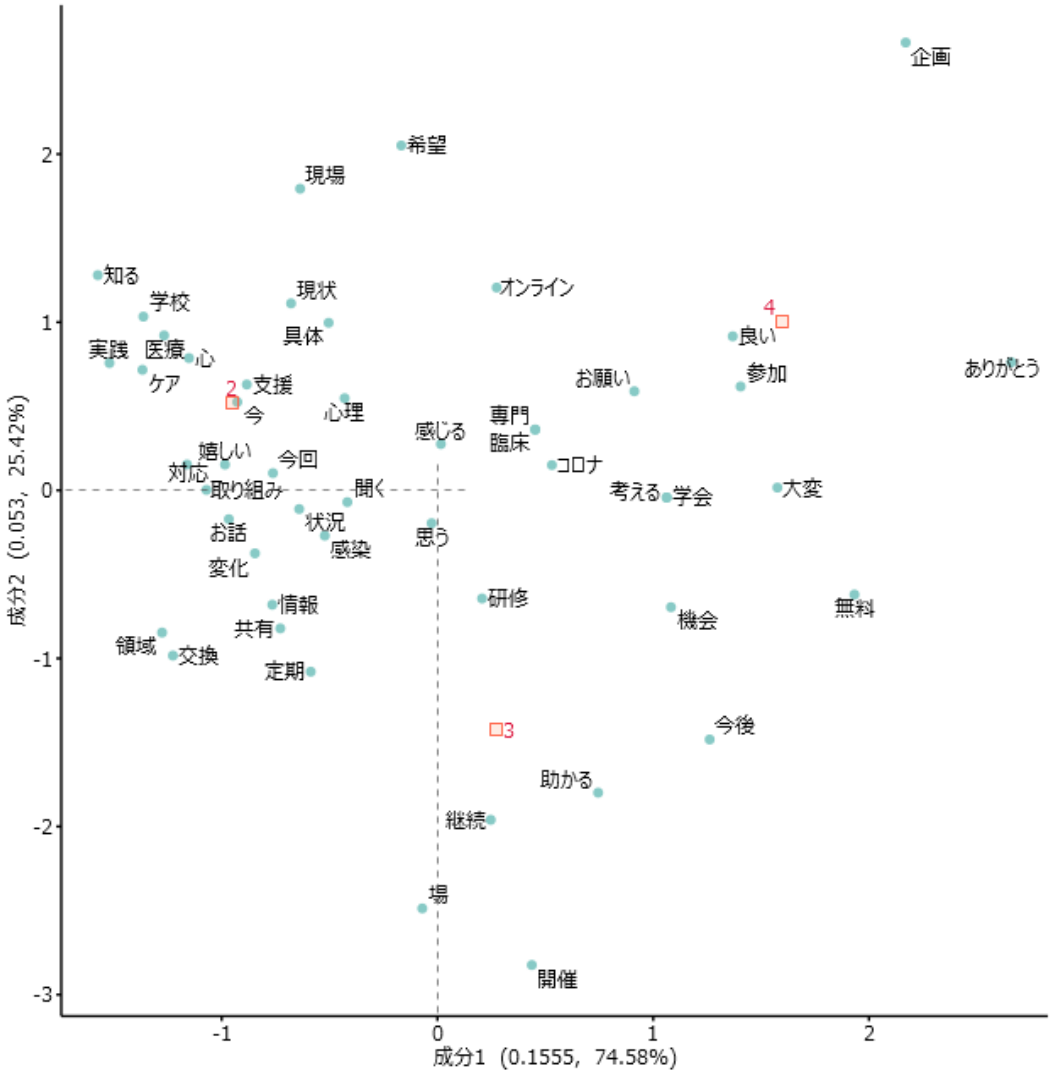

Figure 8: Results of response analysis for changes in requests for training planning for the third and fourth training sessions (first half and second half)

図 8　第 2 回、第 3 回、第 4 回研修の研修企画の要望の変化について対応分析の結果

Ⅳ　考　察

１．初期 COVID-19 まん延期における心理師の現状について

第１の目的は、初期 COVID-19 まん延期における心理師の現状について明らかにするために、（1）業務の中で抱えている困りごとや課題について、（2）初期のコロナ禍において業務量の増減について、（3）コロナウイルスの情報に対して心理師がどう認識したかの３つを分析対象として設定した。なお、自由記述においては「」、KH Coder 3 で抽出された言葉は【】で示す。

（1）業務の中で抱えている困りごとや課題について

初期 COVID-19 まん延期における業務の中での困難や課題は、第 2 回研修を実施した 4 月末においては、「対面カウンセリングの代わりにオンラインカウンセリング」や、「心理面接を対面で継続するべきか否か」、「対面面接を続けていますが、面接で感染させる、感染する不安」など、【対面】での【職場】での【カウンセリング】に【非常】に【困る】っていることが分かる。「このまま長期化になると、オンライン相談など、手段を変えていく必要がある」、「電話やオンライン対応も顔が見えない」、「オンライン面接や電話相談の起案」など、【相談】【活動】に【オンライン】が求められることが挙げられている。前述の通り日本公認心理師協会の調査（2021）では、新型コロナウイルス感染症の影響で、各種遠隔相談ツールの導入が 34%であり、「種遠隔相談ツールの導入は、これまでも、電話相談やメール相談などで少しずつの取り組みはなされていたが、オンライン会議システムを用いてのオンライン相談は、必要に迫られて開始された場合も多いであろう。その有効性と課題が浮かび上がっている状態であり、今後の継続した検討が求められている」と指摘している（日本公認心理師協会,2021）。本研究の結果もこの指摘を反映する結果となった。

職場環境の内容としては、「病院の方針、各部署の方針などを踏まえて」「病院勤務の心理職として自身が感染せず」、「感染させてしまうのではという不安を抱えながら」「感染させる、感染する不安がある」など【病院】で行う【面接】に伴う【コロナ】への【感染】【不安】があった。加藤(2022)の報告においても、「セラピストの気持ちの面でコロナ禍以前と異なると感じることは何ですか」という質問に対して、最も多かった答えは「感染リスクを感じながらの面接」であった。このように、「自分自身が非常にストレスをかんじていた」、「心理士自身も混乱したりこうストレス状態にある」ことが指摘される。また、「ナースの疲労をケアすること」「災害のケアの経験が浅く」「自分自身にケアについて」「どのように対応したらいいか悩む」といった【職員】の【ストレス】など【ケア】について【悩む】ことなどが明らかとなった。

第 3 回研修を実施した 5 月末においては、「通常体制に戻る」、「通常通り行うべきかの判断」「通常にない面接が増える」など、【通常】での【勤務】が【難しい】、【相談】【業務】が【増える】など状況にある。非常事態宣言が出された場合、業務として在宅勤務が許可されるかどうかが、焦点のひとつであった(日本公認心理師協会,2021)。この許可が、増加したか減少したかの分かれ目になったように思われる。基本業務のみを考えると、公認心理師は職場に出勤しなければ業務を行えないよう組織から判断されやすいが、展開業務に関しては、その準備や資料作成、メール等での連絡など、在宅で実施できる業務も多い。展開業務が、日ごろの業務の中で組織からどう位置づけられているかが、重要なポイントとなる局面でもあったのかもしれない（日本公認心理師協会,2021）と推察している。

学校に関連するテーマとしては、「明日からの学校再開以降、学校がどのようになっていくのか、不安」や「学校が再開する明日以降の児童生徒の様子が非常に心配」など【学校】での【再開】において【子ども】の【生活】や【家族】の【不安】などが挙げられている。また、「ストレスチェックの実施も提案」、「生徒理解や生徒たちの表現の一つとして、アンケートの実施を考えて」や「遠隔授業の対応等に追われている自分」など【心】の【危機】に対する【アンケート】の【実施】についても課題に挙げられている。さらに、「オンライン授業の課題が多すぎる」「オンライン会議」など【大学】の【学生】の【オンライン】化についての課題も挙げられていた。

（2）初期のコロナ禍において業務量の増減について

業務量の増減は変わらなかった人が最も多く、次いで 50%減少した人が多かった。次いで 20～29%が多かった。公認心理師協会の調査（2021）では、支援内容の縮小・休止が 66%、勤務形態の変更が 41%、減収が 16%と、支援内容や勤務形態に及ぼす影響が大きかった。変化のない人が半数だったが、業務が少なくなる人のほうが増加する人よりも多かった。自由記述においても「収入が減少することが不安」という意見があった。支援内容の縮小・休止、減収などの影響は、特に非常勤勤務に対してが、常勤勤務と比較して多い傾向にあった。非常勤勤務の不安定な状況が反映されている（日本公認心理師会,2021）。この結果を踏まえると、非常勤職の仕事が減少し、一方で常勤職の業務は増加したというアンバランスが生み出されていると考えることができる。決められた業務が固定されている非常勤職の場合は、この緊急事態に十分に対応できなかった可能性がある。

（3）コロナウイルスの情報に対して心理師がどう認識したか

①第 3 回研修の内容（医療、教育、福祉の現場からの報告）について

3 つの職域の「現場からの報告」に対して、心理師がどのような感想を持ったかについての中心的なものは、第 1 グループでは、「心理に関わる専門家通しの情報共有をする機

会」や「心理職の方々と現状についての情報共有」など、【心理】【研修】に参加して【具体】的な【様々】な【情報】を【共有】することができたことである。ついで第2グループでは、「明日からの業務に役立つ」や「学校現場に還元したい」、「自分自身を守るという視点」など【明日】からの【学校】【現場】での【子ども】へ、【自分】【自身】の【勤務】や【対応】について明確となったと思われる。第3グループでは、「各分野の現状を知る」「医療、教育、福祉の格言までの具体的取り組み」など【教育】・【医療】・【福祉】の各【分野】の現状を知り聞ける機会となっていた。その他では、「取り組みのあり方を考える機会」や「スクールカウンセラーに求められるニーズ」など、【スクール】【カウンセラー】がこれからを【考える】【機会】となっていた。また、「セルフケアの大切さ」や「セルフモニタリングをしながら」【セルフ】【ケア】の【支援】についても意識が高まっていた。

②第4回研修1（前半）「新型コロナウイルスの特徴について」

秋冨慎司氏、冨永良喜氏による新型コロナウイルスの特徴の講演に対して、心理師がどのような感想を持ったかについては、第1グループでは、「新型コロナの最新の知見」や「知らない側面を教えていただいた」など【新型】【コロナ】【ウイルス】を【知る】こと、第2グループでは、「今後の見通しなど、正しい情報」や「専門的な知識を得る」など【ウイルス】に対する【正しい】【理解】と【勉強】で【今後】の【システム】や【情報】を【得る】ことができた。第3グループでは、「第一線の医療の実情」など【医療】の【関係】や【状況】が【分かる】こと、第4グループでは、「PCR検査の状況や適応に関する情報」や「貧困の問題は参考になった」など【PCR】【検査】について【問題】を【参考】に【聞け】たこと、第5グループでは、「どのように心理的支援を行っていけるのか」や「心理職としてどう動くべきか」など【心理】の【仕事】の【現状】を【考える】機会に【ありがとう】という感謝が生まれている。その他、「現場で必要なことを感じながらも実現できないジレンマ」や「メディアから得られる知見は偏向が多いように感じます」など【現場】で【感じる】こと、「時事問題がお聞きできて大変役立ちました」や「正確な知識を持つことは大切」など情報を【聞く】ことの【大切】さを感じたことが浮かび上がった。

③第4回研修2（後半）「新型コロナウイルスへの精神的ケアについて」

菊地祐子氏、高橋哲氏によるによる新型コロナウイルスへの精神的対応についての講演に対しては、第1グループでは、「目の前の子どもが何に困っているのか」や「想像力を働かせることの大切さを改めて感じました」など【子ども】の【心理】的【対応】について【改めて】【現状】を【大切】にしながら【考える】機会になっていた。第2のグループでは、「揺るぎない根本的な考え方や姿勢を再確認」や「苦しい状況から未来を展望する前向きな思考・姿勢に感動した」など【コロナ】に対する【基本】的【視点】や【前向

き】な【臨床】【姿勢】と【状況】を【たくさん】【質問】できたとのことだった。第3のグループでは、「問題はわかりにくいようですが、関心を持ち続ける必要」や「教育現場でメンタルヘルスの授業時間を増やす」など【授業】で【人】が【問題】意識を【持つ】【必要】を感じている。その他のグループでは、「これから自分が何をしたら良いかのよい指標が見つかりました」や「自分自身がずっと大事にしてきたこと」など【具体】的に【自分】【自身】を【大切】にする【お話】を聞けたこと、「たくさんの前向きなお言葉に未来への希望を感じました」や「希望を見つけていく大切さを感じました」など【希望】を【感じる】【内容】だったとのことだった。

このように、災害心理援助では、①それぞれの領域における現状の認識と共有②ケアの基本姿勢の確認、また③自分自身を大切（セルフケア）にしなければならないこと、④災害の原因である新型コロナウイルスを知ること、⑤支援については前向きで希望を感じるものとなるようにすることが大切である必要があるといえる。

２．災害心理援助に関するオンライン研修の有効性について

本研究の第2の目的である研修の有効性については、（4）それぞれの研修の満足度・役立ち度についてと（5）今後の研修への希望の変化について検討することによって明らかにする。

（１）それぞれの研修の満足度・役立ち度について

（4）それぞれの研修の満足度・役立ち度については、いずれにおいても研修が進むにつれて高くなった。現状報告のみであった3回研修ではやや満足が割合としては多かったが、新型コロナウイルスの医療情報や、精神科領域における心のケアなどの具体的な対応や考え方、姿勢について取り上げた第4回が高い満足度と役立ち度を感じることにつながったと思われる。災害心理援助における研修では、現場における具体的な対応についてレクチャーすることが、現場ですぐに役に立つものになる。この結果から、それらを十分に提供できたといえるだろう。

（２）今後の研修への希望の変化について

（5）今後の研修への希望の変化については、今後の研修の必要性の要望を3つの研修（第2回、第3回、第4回）で自由記述の対応分析で比較したところ、研修を実施するごとに要望が少なくなっていた。

第2回では「今から何をすべきかについて学びたい」、「危機介入、緊急対応時の具体的な対応の仕方」など【今】できる【具体】的な【支援】についての情報や、「医療、学校で分けた企画ですと、さらに深まる」「時々に応じた心のケアを共有して」など、【学校】【医療】別の【実践】における【対応】【取り組み】、【心】の【ケア】の提供を求めている。「定期的な情報共有の機会を是非お願いしたい」、「さまざまな地域や領域の方々と情報交換できる」など【定期】的な【情報】【交換】や【共有】の機会を求めてい

るという結果だった。新型コロナウイルス感染症の影響は、今後もしばらく続くものと予想される。各種遠隔相談ツールの導入などは、引き続き検討され、これらのツールを用いての援助スキルの向上も図られる必要があろう。新型コロナウイルス感染症の影響は、今後もしばらく続くものと予想される。各種遠隔相談ツールの導入などは、引き続き検討され、これらのツールを用いての援助スキルの向上も図られる必要があろう（日本公認心理師協会,2021）。第 3 回では、「今回のようなウエブ研修を継続的に行っていただけるとありがたい」など、【継続】的な【研修】の【開催】が【助かる】というものであった。

また、第 4 回においては、「毎回、大変有意義に参加させていただいています」、「またこのような企画があれば参加させていただきたい」など【良い】【企画】に【参加】できたという形であった。

対応分析図によると、要素の散らばりが初期段階では密だが、回を進むにつれて疎になっていることからニーズの減少を意味していると考えられ、全 4 回の研修で初期対応における一通りの研修ニーズに応えていると思われる。

V　まとめと今後の課題

本研究の目的は、COVID-19 まん延初期の心理師の現状と災害心理援助に関するオンライン研修の有効性について、オンライン研修に関するアンケート調査から検討した。

その結果、初期 COVID-19 まん延期における業務の中での困難や課題は、対面での職場でのカウンセリングに困難が伴う事、相談活動にオンラインが求められること、病院で行う面接に伴う感染不安、職員のストレスケアについて悩んでいることなどが明らかとなった。また、業務量の増減は変わらなかった人が最も多く、次いで 50%減少した人が多かった。研修において変化した参加者の認識は、各領域での情報共有や状況理解ができたこと、新型コロナウイルスの正しい情報を知れたこと、子どもの心を想像する重要性に気づいたなど、①それぞれの領域における現状の認識と共有②ケアの基本姿勢の確認、また③自分自身を大切（セルフケア）にしなければならないこと、④災害の原因である新型コロナウイルスを知ること、⑤支援については前向きで希望を感じるものとなるようにすることが重要であることが示唆された。

また、研修の満足度・役立ち度は、研修が進むにつれて高くなった。今後の研修の必要性を 3 研修で比較したところ、研修を実施するごとに要望が少なくなっていた。

これらの結果から、アジア災害トラウマ学会で行った 4 回の研修は、初期コロナ対応のニーズを満たす有効性の高い研修だったと考えられる。

一方で、組織の中での心理師の評価やアプローチに関する項目は分析によって抽出されなかった。新型コロナウイルス感染症の影響は、今後もしばらく続くものと予想される。自らの業務を、基本業務、展開業務、そして分野特化業務と位置づけを明確化し、組織にその必要性や実績を評価してもらい、在宅勤務等の柔軟な勤務のあり方についても検討す

ることが、引き続き求められる。各種遠隔相談ツールの導入などは、引き続き検討され、これらのツールを用いての援助スキルの向上も図られる必要があろう（日本公認心理師協会,2021）と指摘されているが、このテーマは研修で扱われていないこともあり、本研究の分析のトピックとして挙げられなかった。今後は、組織などコミュニティに目を向け、日常から緊急時の対応を取り組んでおく必要があるだろう。

文　献

樋口耕一（2022）　KHCoder　3（https://khcoder.net/scr_3wnew.html）
一般社団法人日本公認心理師協会（2021）厚生労働省令和２年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の活動状況等に関する調査」
加藤のぞみ（2022）感染拡大下での臨床心理相談体験に基づく継続支援の工夫について　臨床心理士報　第 33 巻　第 1 号 pp.25-41
厚生労働省　2020　〈「新しい生活様式」の実践例〉．URL: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html（2022 年 2 月 1 日閲覧）